

は じ め に

『読む力 中級』は、大学や大学院、専門学校で学んでいる人、これから学ぼうとする人、そして、「中級の壁」を越えたいと思っている人を対象にした教材です。読むことにおいて「中級の壁」というのは、社会や専門分野で出会うさまざまな文章を詳細な点まで理解したり、表面的な意見や情報ばかりでなく、含意された意見や立場なども理解したりすることを言います。この壁を越えれば、大学などで学ぶための準備が十分に整った読みの上級者になることができます。本書は、上級者を目指して「中級の壁」を越える第一歩を踏み出したいと思っている学習者のために作りました。

みなさんは、日本語の文章を読んだときに、「ことばの意味は分かるのに、言いたいことが分からない」という経験はありませんか。母語で書かれた文章を読むときにも、同じことが起こります。

原因は四つ考えられます。一つ目は、文章自体に問題がある場合です。これは書き手の問題ですから、分からなくて当然です。二つ目は、文章のテーマや話題について、読み手にあまり知識や経験がない場合です。三つ目は、読み手に語彙・表現の知識と文または談話(文章)の文法知識が足りない場合です。そして、四つ目は、読み手の文章の理解力が低い場合です。文章の理解力というのは、ことばの文字通りの意味だけではなく、文と文や段落と段落などの関係性や話の展開などを考えながら、書き手が伝えようとする内容や情報、あるいは意図や主張を理解する能力です。少し難しい言葉でいうと、認知処理の能力ということとです。

「中級の壁」を越えるには、特に、三つ目の日本語の知識と四つ目の文章の理解力、つまり認知処理の能力が必要です。大学等で学ぶということは、文章のテーマや話題になっている専門領域の知識を得たり、考え方を学んだり、そこでの問題を解決したりする力を養うことです。そのためには、日本語の知識と認知処理の能力が必須です。

本書は、専門領域の内容そのものは扱いませんが、みなさんが専門分野の文章を読むときに役立つと考えられる内容で、書き手の立場や視点が明確な文章を選んであります。そして、日本語の知識と認知処理を日本語で行うための基礎力を身につける問題を数多く入れました。その認知処理のスキルを明示したのが、本書の新しい点です。

本書が、みなさんにとって、上級者への一歩を踏み出す一助となれば幸いです。

2011 年 神戸にて東風を待ちつつ

奥田純子
おくだ じゅんこ

目 次

はじめに iii

この本の使い方 v

第1課	心のバリアフリー —靴と車椅子.....	1
	□乙武洋匡(著)	
第2課	30代ビジネスマンの「心の病」を考える.....	9
	□香山リカ(著)	
第3課	「少女マンガ家ぐらし」へ —夢を叶える.....	19
	□北原菜里子(著)、岩波書店編集部(編)	
第4課	プロフィール —夢を実現させ続ける外食産業の雄.....	27
	□村上龍(著)、テレビ東京報道局(編)	
第5課	インタビュー —夢に日付を入れれば、今日やるべきことがわかる.....	35
	□村上龍(著)、テレビ東京報道局(編)	
第6課	いつも学びがある —患者からも学ぶ。それを伝える役割がある。.....	45
	□テレビ東京報道局(編)	
第7課	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち.....	53
	□箱田忠昭(著)	
第8課	緑のカーテン.....	65
	□『西日本新聞』「春秋」2007.8.10	
第9課	環境立国ニッポンの挑戦 —第1章 水資源(4)進む廃水浄化 再利用「当たり前」..	73
	□『産経新聞』2008.1.23	
第10課	渡り鳥はなぜ迷わない?	81
	□東嶋和子(著)、北海道新聞取材班(著)	
第11課	フリーズする脳 —思考が止まる、言葉に詰まる	91
	□築山節(著)	

この本の使い方

対象とする学習者

- 大学、専門学校等で学んでいる人、学ぼうとしている人
- アカデミックな日本語を読めるようになりたい人
- 日本語能力試験(N1、N2)、日本留学試験に向けて読解の勉強をしたい人

この本の特徴

特徴1 ... 学習目標が見える！

- ◎各課の学習目標には[できること 1]と[できること 2]の2つがあります。

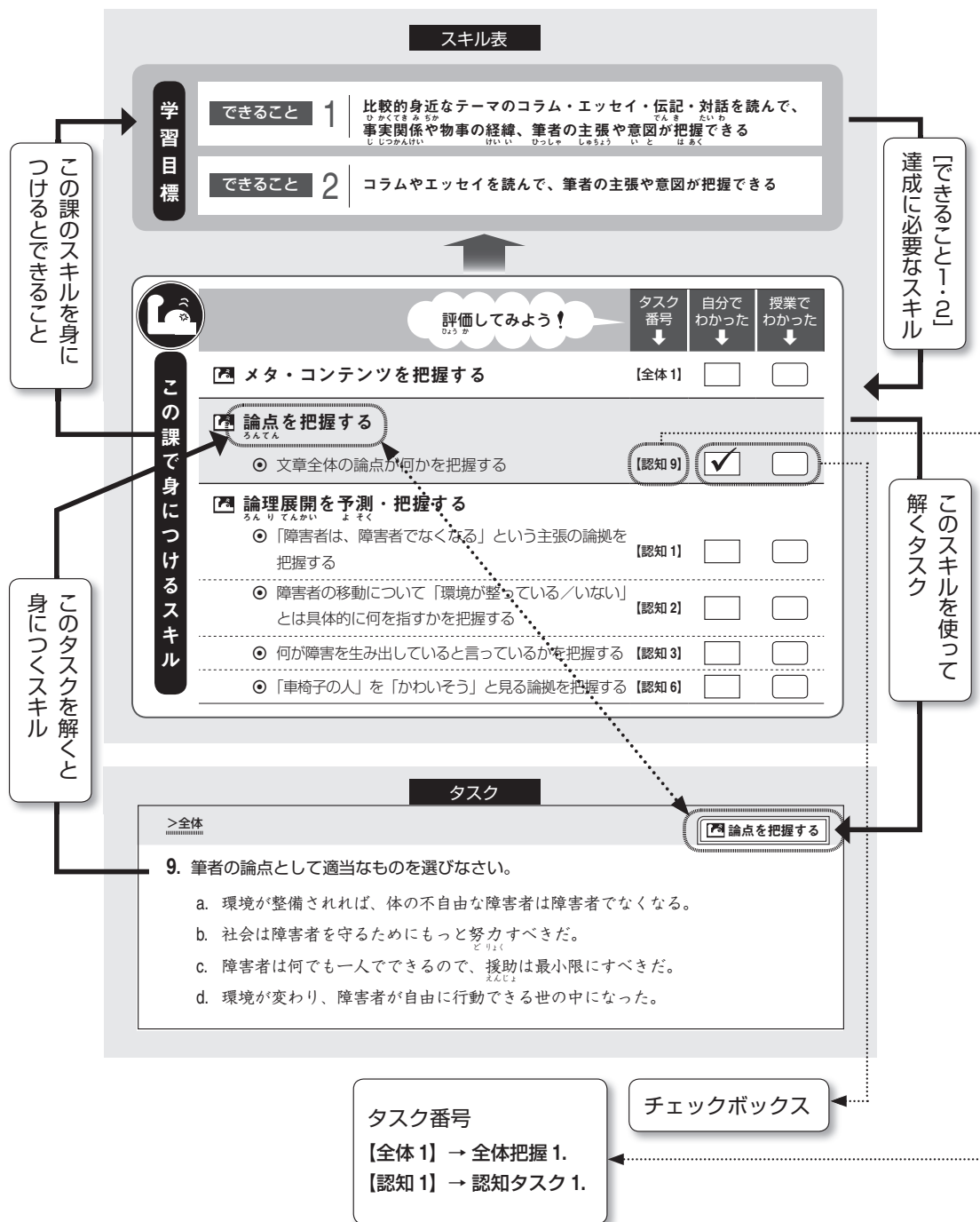
できること 1 この本で達成する大きな学習目標です。

できること 2 [できること 1]を細かく分けたのが、[できること 2]です。その課の勉強は何のためか、これを勉強することによって何ができるようになるのかわかります。

	できること 1	できること 2	
第1課～第5課	比較的身近なテーマのコラム・エッセイ・伝記・対話を読んで、事実関係や物事の経緯、筆者の主張や意図が把握できる	コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる	第1課、第2課
		プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる	第3課、第4課
		対話形式のテキストを読んで、テーマに沿って発言の要点が把握できる	第5課
第6課～第11課	新聞・雑誌のコラムや解説文、教養書を読んで、詳細な事実関係や現状、展望、背景、因果関係、理由、根拠などが把握できる	伝記やドキュメンタリーを読んで、描かれた人物の特徴が把握できる	第6課
		自己啓発書の一節を読んで、筆者の提案とその根拠が把握できる	第7課
		新聞のコラムや特集記事を読んで、取り上げられた事象の現状、展望、原因、問題点などが把握できる	第8課、第9課
		一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる	第10課、第11課

特徴2 ... 必要なスキル(技能)がはっきりわかる！

- 課のはじめに「この課で身につけるスキル(スキル表)」があります。スキルは、全体把握と認知タスクを解くことによって確認できます。「タスク(問題)」⇒「スキル(技能)」⇒「学習目標(できること)」というつながりがはっきり見えます(スキルの内容については pp.xi-xii を参照)。



●「この課で身につけるスキル(スキル表)」のチェックの仕方

タスクを解いた後、自分で「この課で身につけるスキル(スキル表)」や巻末の「スキル一覧表」にチェック✓してみてください。得意なスキル、苦手なスキル(あなたに必要なスキル)がわかります。自分の弱い部分を知って勉強すれば、読む力が確実に身につきます。

タスクを解く → 評価してみよう!

タスク番号 ↓ 自分でわかった ↓ 授業でわかった ↓

📌 論点を把握する
ろんてん はあく

◎ 筆者の論点を把握する [認知9] ☒ ☒

何ができたの? → 得意なスキル

何ができるようになったの?
 → 苦手なスキル = 必要なスキル

● 巻末には「スキル一覧表」があります。その課の学習を終えて、それぞれのスキルが身についたかどうかを自己評価し、チェック✓してみましょう。得意なスキル、苦手なスキル(あなたに必要なスキル)を把握して、スキル向上に役立てましょう。

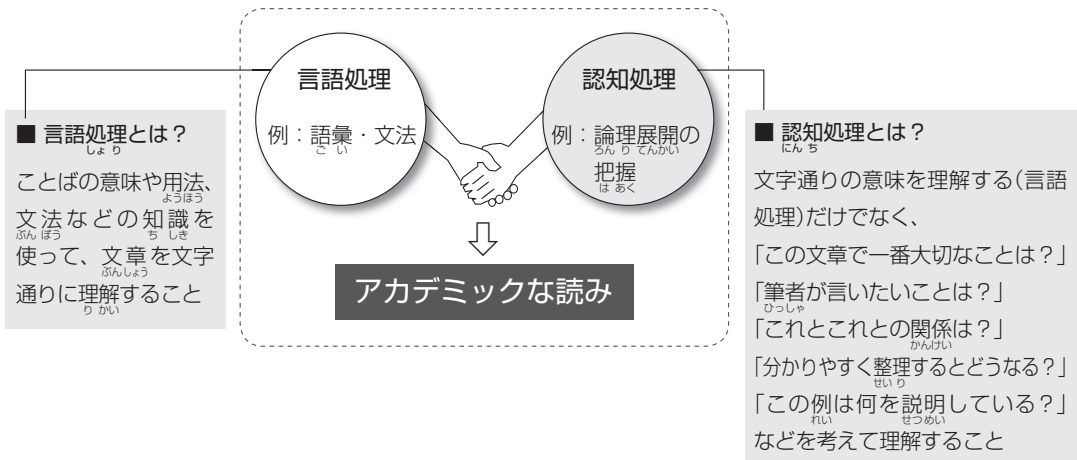
学習目標	できること①	比較的身近なテーマのコラム・エッセイ・伝記・対話を読んで、事実関係や物事の経緯、筆者の主張や意図が把握できる		
	できること②	コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる	プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる	
各課詳細	課	第1課	第2課	第3課
	タイトル	心のバリアフリー	30代ビジネスマンの「心の病」を考える	「少女マンガ家ぐらし」へ
身につけるスキル	メタ・コンテンツを把握する	● ☒	● ☒	● ☒
	全体の流れを把握する		● ☒	● ☐
	テーマを把握する			
	論点を把握する	● ☐	● ☐	
	論理展開を予測・把握する	● ☒	● ☐	● ☐
	明示的な主張・意図を把握する	● ☒		● ☒
	結論を把握する			

チェックボックス

特徴3 とくちょう

… アカデミックな読みをするための3種類のタスク しゅるい

●大学、専門学校で必要とされるアカデミックな読みとは？
せんもん ひつよう



●各課にはアカデミックな読みをするための3種類のタスク(「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」)があります。

1. 全体把握

メタ・コンテンツ(次ページ参照)と文章の種類を問うタスクです。段落を正しい順序に並べ替えたり、どのような読者層を対象に書かれた文章か把握したりするタスクもあります。テキストを読んで、そこに書かれたことはつまり何なのか、というメタ・コンテンツの形にまとめる力は、レジュメやレポートを書くときに必要です。まず、時間をかけずにサッと読んで、解いてみてください。もし、分からなかったら、「言語タスク」「認知タスク」を解いた後でもう一度考えてみてください。

2. 言語タスク

「認知タスク」を解くために必要な言語処理を問う問題なので、「認知タスク」を解く前に解いた方が効果的です。

3. 認知タスク

言語処理だけでなく、認知処理を同時に必要とするアカデミックな問題です。

メタ・コンテンツとは？

コンテンツ(内容)そのものではなく、内容をメタ(meta-)に(ひとつ上のレベルから)捉え直し、名詞句で端的にまとめたものです。要点や要約ではありません。

⇒「コンテンツ」と「メタ・コンテンツ」の違いは？

- ① 明日は朝のうちは晴れますが、午後から崩れだし、雨になるところもあるでしょう。

△ 明日の天気が悪くなる ←コンテンツ

○ 明日の天気予報 ←メタ・コンテンツ

- ② 電車内では、周りのお客様のご迷惑にならないよう、携帯電話はマナーモードに設定し、車内での通話をご遠慮ください。優先席付近では、電源をお切りください。皆様のご協力をお願い致します。

△ 電車内では携帯電話を使わないでほしい ←コンテンツ

○ 電車内での携帯電話使用に関するお願い ←メタ・コンテンツ

- ③ 冬になると空気が乾燥し、風邪のウイルスの活動が活発になります。風邪を予防するには、ウイルスを体内に入れないことです。出かけるときは、人ごみを避け、帰ったら手洗いとうがいをしましょう。また、抵抗力を高めることも大切です。そのためには、十分な睡眠をとり、栄養のバランスの取れた食事をしましょう。

△ 風邪を予防するにはウイルスを体内に入れないことと、抵抗力を高めることが重要だ ←コンテンツ

○ 風邪の予防のためのアドバイス ←メタ・コンテンツ

■ 読む前に

皆さん自身の考え方、ふるさとの文化などに関する簡単な質問や、短い文章が書かれています。これは、テキストを読む前に、そのテーマやトピックに関する皆さんの知識を引き出して、興味や関心をもってもらうためのものです。クラスでその質問や文章について話し合い、共有しておけば、より多くの知識を持ってテキストを読むことができます。もし、皆さんがそのテーマやトピックに関してあまり知らない場合は、テキストを読むために必要な知識を得ることもできます。

■ 学習目標

この課の学習を通じて、何ができるようになるのが、[できること 1] [できること 2]に書かれています(詳しくは p.v を参照)。文章を読むとき、普通は「この機械の使い方を知りたい」とか「手紙の用件を知りたい」など具体的な目的があります。この本の本文を読むときにも、「これを読み取ろう」という目的を持って読むことによって、なんとなく読むよりも読む力が格段に高まります。

■ この課で身につけるスキル(スキル表)

この課の学習目標を達成するために必要なスキルが挙げてあります。これらのスキルは、問題を解くときに使うスキルでもあります。スキルは、全体把握と認知タスクを解くことによって確認できます。この課の学習を終えたあとで、自分がそのスキルを使えるようになったか、自己評価してみてください。最初に問題を解いたとき、自分ひとりですぐにできた場合は、「自分でわかった」にチェック ☒ を入れましょう。最初はわからなかったけれど、授業の中でクラスメートや先生の助けを借りながら理解できたという場合は、「授業でわかった」にチェック ☒ しましょう(詳しくは p.vi ~ vii を参照)。

各課の評価が済んだら、「自分でわかった」が多いスキルと、「授業でわかった」が多いスキルが見えてきます。読解に関する自分の得意なところと、これからもっと伸ばしたいところを、この自己評価を通じて把握しましょう。

スキル表のふりがなは、日本語能力試験(旧試験)の2級以上(2級、1級、級外)の漢字を使う語と、固有名詞についています(ページ初出のみ)。

また、2課、7課、8課のスキル表の最後にある「関連語彙と表現」は、互いに意味上のつながりのある語彙や表現です。このつながりに注意すると、テキストの理解が深まります。

スキル表の内容

 メタ・コンテンツを把握する Grasp the meta-contents of the text / 掌握大意 / 주요내용을 파악한다	メタ・コンテンツとは、内容をメタに(ひとつ上のレベルから)捉え直し、名詞句で端的にまとめたものです。内容の要約ではありません(詳しくは、p.ixを参照)。
 全体の流れを把握する Grasp the overall flow of meaning of the text / 掌握总体的流程 / 전체의 흐름을 파악한다	文章全体をひとつの話として理解することです。話のつながりがわかり、段落を正しい順序に並べ替えることができます。
 テーマを把握する Grasp the theme / 掌握主题 / 테마를 파악한다	その文章が扱っているテーマ(主題)を的確に捉えることです。テーマとトピック(話題)が異なる場合や、テーマが直接的に書かれていない場合もあります。
 論点を把握する Grasp the point of argument / 掌握论点 / 논점을 파악한다	論点とは、そこに書かれた主張やその根拠の核心(一番中心的なポイント)です。つまり、「要するに何が言いたいか」です。
 論理展開を予測・把握する Predict/understand the logical development / 预测掌握逻辑展开 / 논리 전개를 예측・파악한다	書かれたことを論理的に追い、「なぜそう言えるのか」を理解すること、論理的に考えて前後の展開や結論を推測することです。
 明示的な主張・意図を把握する Grasp the explicit assertion/intention / 掌握明确的主张・意图 / 명시적인 주장・의도를 파악한다	文中に筆者の主張(意見)や意図(言いたいこと)がはっきり表れているときに、それが読み取れることです。
 結論を把握する Grasp the conclusion / 掌握结论 / 결론을 파악한다	筆者の最終的な判断を一言でまとめるとどうなるかがわかることです。結論ははっきり書かれている場合とそうでない場合があります。あとの場合は、書かれたことをもとに推測する必要があります。
 特定の情報のみを抽出する Extract specific information / 只提取特定的信息 / 특정의 정보만을 추출한다	必要な情報がどこに書かれているか見つけ出すことです。要らないものを捨て、必要な部分だけを取り出します。
 比較・対照する Compare/contrast / 比较・对照 / 비교・대조한다	「Aはこうだが、Bはこうだ」と何かを比べた文章を理解することです。分類の視点が筆者独特の場合、何と何を対比しているのかを的確に捉えることがポイントになります。
 原因と結果の関係を把握する Grasp the relationship between cause and result / 掌握原因和结果的关系 / 원인과 결과의 관계를 파악한다	因果関係を理解することです。文中で原因と結果が離れている場合や、直接的に書かれていない場合もあります。
 構造・法則性を把握する Grasp the structure/principle / 掌握构造・法則性 / 구조・법칙을 파악한다	書かれている内容について論理的な構造や法則性(こういう場合はこうなるなど)を整理して理解することです(ここで言う「構造」は、文章の文法的・言語的構造ではありません)。

 何の例かを把握する れい Grasp what the example is for / 掌握例挙の事例 / 무슨 예인지를 파악한다	例を挙げて何かを説明しているとき、「それが何を説明するための例なのか」を理解することです。「どんな例か」ではありません。
 直接的・間接的引用に注意する ちよくせつてき いんよう Pay attention to the direct/indirect quotation / 注意直接的・間接的引用 / 직접적・간접적인응에 주의한다	他の人の言葉や本の内容などを伝える引用部分と、地の文(筆者の述べていること)を区別して理解することです。引用でも「 」がある場合とない場合があります。
 非明示的な背景・意図を推測する ひめいじてき はいけい すいそく Speculate on the implicit background/intention / 推測非明的的背景和意图 / 비명시적인 배경이나 의도를 추측한다	書かれたことの背景や意図が直接的ではないが推測できるように書かれている場合に、それを捉えることです。
 複数の情報を関連付ける ふくすう じょうほう かんれん つ Relate two or more pieces of information with each other / 把复数的信息联系起来 / 복수의 정보를 관련 짓는다	書かれている複数のことが互いに関連している場合に、その関係を正しく理解し、関連するもの同士を結びつけることです。
 発話者を特定する たくてい Specify the speaker / 认定发话者 / 화자를 특정시킨다	文中に複数の人物が登場する場合に、ある言葉を「誰が言ったのか」を正しく捉えることです。
 アナロジー・比喩がわかる ひゆ Understand the analogy/metaphor / 判明类推・比喩 / 유추・비유를 알 수 있다	アナロジー(類推)というのは、新しい物事や考え方を説明するときに、すでに知っていることと比べてみることです。「ああ、こういうことかな」と類推してわかってもらうための説明の手法です。 比喩は、「太陽のように明るい人」や「人生は旅だ」のように、一つのものを何か他のものに喩えることです。「人生は旅だ。計画してもその通りには行かない。だが、そこがおもしろい。」のように、喩えるものの間に共通の物語や関係や構造があるものは、比喩でもあり、同時にアナロジーでもあります。 ◆ [アナロジーを使った説明の例] 「過去にこだわらずに前に進むこと」を説明するために、下線部のコップの話を、アナロジーとして使っています。 ときどき、これまでのやり方や過去の成功体験にこだわって、新しい方法や考え方を受け入れられない人がある。だが、それでは進歩も成長もない。過去にこだわらずに前に進もう。コップに新しい水を入れるには、今、入っている水を捨てなければ<u>ならない</u>のだ。

■ テキスト

文章の種類としてはエッセイ、対話文、新聞記事、解説文など、ジャンルとしては自己啓発、経済、環境、福祉など、大学などにおいて出会う多様なものが選ばれています。内容的には、専門的なテキストを読む前段階として、一般向けの文章で認知処理が必要なものが選ばれています。全て、日本人向けに書かれた生の文章です。

ふりがなは、日本語能力試験(旧試験)の1級以上(1級と級外)の漢字を使う語と、固有名詞についています(ページ初出のみ)。それ以外で読み方のわからない語は、語彙リストで調べましょう。

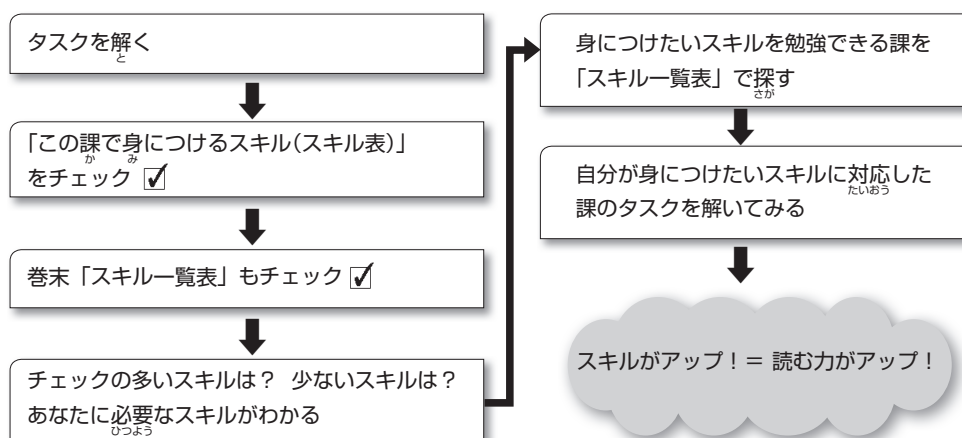
■ 全体把握・言語タスク・認知タスク

「この本の特徴 特徴3 (p.viii)」を参照してください。

■ 巻末「スキル一覧表」

巻末の「スキル一覧表」には、各課の学習目標([できること1][できること2])、「この課で身につけるスキル」が一覧で示してあります。その課の学習を終えたら、身についたスキルを自己評価し、チェックを入れましょう(詳しくは p.vii を参照)。

▶▶▶こんな使い方ができます



■ 別冊「語彙リスト」

べっざつ せいでい

その課の語彙の英語、中国語、韓国語訳がついています。予習、復習に使ってください。

かんこく

よしゅう ぶくしゅう

級	ことば	読み方	英語	中国語	韓国語
■ 第2課 30代ビジネスマンの「心の病」を考える					
2	病	やまい	illness	病患	병
	～傾向にある	～けいこうに ある	to have a tendency to~	有～傾向	경향이 있다
外	メンタルヘルス		mental health	心理健康	정신적 건강
1	対応する	たいおう-する	to correspond	对应, 应付	대응하다, 대처하다
2	回復する	かいふく-する	to recover	恢复	회복되다
外	直属	ちよくぞく	direct; immediate	直属	직속
外◆	法務	ほうむ	legal affairs	司法	법무

[凡 例]

1＝日本語能力試験(旧試験)の1級の語彙、2＝2級、3＝3級、4＝4級

のうりよく

せいしゅう

せいしゅう

(＊旧試験の1級はおおよそ新試験のN1に、2級はN2に、3級はN4に、4級はN5に相当します。)

外＝日本語能力試験の級外で覚えたほうがよいもの

おほ

外◆＝級外の理解語彙でよいもの

りかい

○日本語能力試験3級、4級の語彙は漢字の読みが難しいものだけ載せています。

の

○2語以上のフレーズで載せているものは、級が書かれていません。

例：不調を訴える

○複合語の2つの語の級が違う場合は、上の級が書かれています。

例：重なり合う⇒2級

重なる⇒2級、合う⇒3級

第1課

心のバリアフリー

靴と車椅子

くるま いす

読む前に

1. 下の文は筆者自身の生活体験をつづった『五体不満足』のまえがき冒頭部分です。筆者についてどのようなことが分かりますか。
2. あなたの国では、交通機関や建物に障害を持った人のための設備がありますか。また、それはどのような設備ですか。

昭和51年4月6日。満開の桜に、
やわらかな陽射し。やさしい一日だった。
「オギャー、オギャー」火が付いた
かのような泣き声とともに、ひとりの赤
ん坊が生まれた。元気な男の子だ。平凡
な夫婦の、平凡な出産。ただひとつ、そ
の男の子に手と足がないということ以外
は。先天性四肢切断。分かりやすく言
えば、「あなたには生まれつき手と足が

ありません」という障害だ。出産時のト
ラブルでも、その当時、騒がれていた
サリドマイド薬害の影響でもない。原
因は、いまだに分かっていない。とに
かくボクは、超個性的な姿で誕生し、
周囲を驚かせた。生まれてきただけで
ビックリされるなんて、桃太郎とボク
くらいのもんだろう。

著作権保護コンテンツ

できること

1

比較的身近なテーマのコラム・エッセイ・伝記・対話を読んで、
事実関係や物事の経緯、筆者の主張や意図が把握できる

できること

2

コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる



評価してみよう！

タスク
番号
↓

自分で
わかった
↓

授業で
わかった
↓



メタ・コンテンツを把握する

【全体 1】

☐
☐


論点を把握する

◎ 文章全体の論点が何かを把握する

【認知 9】

☐
☐


論理展開を予測・把握する

◎ 「障害者は、障害者でなくなる」という主張の論拠を把握する

【認知 1】

☐
☐

◎ 障害者の移動について「環境が整っている／いない」とは具体的に何を指すかを把握する

【認知 2】

☐
☐

◎ 何が障害を生み出していると言っているかを把握する

【認知 3】

☐
☐

◎ 「車椅子の人」を「かわいそう」と見る論拠を把握する

【認知 6】

☐
☐


明示的な主張・意図を把握する

◎ 「環境さえ整っていれば、……障害者は、障害者でなくなる」ということの意図を把握する

【認知 1】

☐
☐

◎ 「かわいそうな人など……少ない方がいい」という意図を把握する

【認知 7】

☐
☐

◎ 「あるべき姿が現実となる」というのが具体的にどうなることなのかを把握する

【認知 8】

☐
☐


比較・対照する

◎ 「環境が整っている場合」と「環境が整っていない場合」を対比する

【認知 2】

☐
☐

◎ 「メガネをかけること」と「車椅子に乗ること」の類似点を把握する

【認知 4】

☐
☐

◎ 「メガネをかけること」と「車椅子に乗ること」の相違点を把握する

【認知 5】

☐
☐

この課で身につけるスキル

心のバリアフリー

靴と車椅子

くるま い す

乙武洋匡（著）（『五体不満足』講談社 1998）
おとたけひろただ こうだんしゃ

——車椅子の方は、付き添いの方と一緒にご利用ください——

1

デパートや図書館などの施設にあるエレベーターの横には、こんな注意書きがある場合が多い。しかし、ボクの場合は、電動車椅子を操作してエレベーターに乗り込み、行きたい階のボタンを自分で押して、その階で降りるという一連の動作が、自分ひとりで可能だ。それでも、付き添いと一緒でなければいけないのだろうか。

①「車椅子に乗った人が、ひとりで行動するのは危険だ」「障害者は、社会で守ってあげなければならない弱者である」

2

注意書きの背景にあるのは、このような考え方ではないだろうか。しかし、ここで根本的な問題をあらためて問い直したい。果たして、障害者は本当に社会から守ってもらわなければならない弱者なのだろうか。

3

たいへん残念なことではあるが、たしかに今の日本では、障害を持った人々が街のなかを自由に動き回るのは困難だし、ひとりで生活することもむずかしい。そこで、多くの手助けを必要とするのも否めない事実だ。だが、障害者を②そのような立場に追い込んでいるのは「環境」なのだ。

4

ボクは日頃から、「環境さえ整っていれば、ボクのような体の不自由な障害者は、
③障害者でなくなる」と考えている。例えば、ボクがA地点からB地点まで行きたいとする。ところが ア という状況では、A地点からB地点までの移動が不可能、または困難になる。その時、たしかにボクは「障害者」だ。

5

しかし、イ といった時、そこに障害はなくなる。一般的には、家を出掛ける時に玄関で靴を履くが、ボクの場合は、靴の代わりに車椅子に乗る。靴と車椅子の違いがあるだけで、自分の力でA地点からB地点まで移動したということに、なんの違いもない。「障害者」を生み出しているのは、紛れもなく、

6

ウ なのだ。

- 7 子どもたちの前でよくこんな話をする。「みんなのなかにも、メガネをかけている人がいるよね。それは、眼が悪いからだね。ボクも、足が不自由だから車椅子くるまいすに乗っているんだ」と言うと、子どもたちは「じゃあ、一緒だね」と笑う。そこで、「メガネをかけている人って、かわいそう？」という質問をすると誰もうなずかないのに、「じゃあ、車椅子に乗っている人は？」という質問には、ほとんどの子が口を揃そろえて「かわいそうだ」と言う。
- 8 「みんなは、眼が悪いからメガネをかけるのと、足が不自由だから車椅子に乗っているのは同じだと言ったのに、どうして車椅子の人だけ、かわいそうなのかな」と言うと、「眼が悪い人は、メガネをかけることで見えるようになるけど、足が不自由な人は、車椅子に乗ってもできないことがたくさんあるから、やっぱりかわいそうだ」という答えが返ってくる。
- 9 子どもたちの意見は、的を射いているように思う。障害者しょうがいしゃが「かわいそう」に見えてしまうのも、 エ 。④かわいそうな人など、多いより少ない方がいいに決まっている。
- 10 誰もが自由に行動できるような社会。⑤あるべき姿が現実すがたとなる日は、まだまだ遠いのだろうか。

■ 全 体 把 握 ■

1. この文章のメタ・コンテンツは何ですか。{ }の中の適当なものを選びなさい。

 メタ・コンテンツを把握する

体の不自由な筆者が{a. 研究者 b. 障害者 c. 医者}の立場から{a. 社会のあるべき姿
b. 障害者の気持ち c. 車椅子の便利さ}を問いかけた{a. 報告 b. 解説 c. 問題提起}

2. 文章の種類は何ですか。適当なものを選びなさい。

a. エッセイ b. 新聞の特集記事 c. 小説 d. 研究論文

■ 言 語 タ ス ク ■

> 1～3 段落

1. 下線部①は、誰の考えとして書かれていますか。適当なものを選びなさい。

a. デパートや図書館の人に代表される社会一般の人々
b. 筆者
c. 車椅子に乗っている障害者一般
d. 体の不自由な障害者の家族

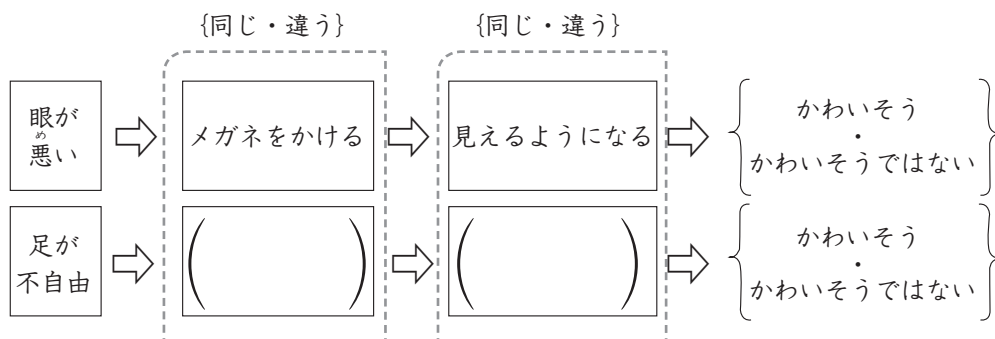
> 4 段落

2. 下線部②は、どのような立場ですか。適当なものを選びなさい。

a. 周りからの多くの手助けを必要とする立場
b. 手助けなく、一人で生活できるような立場
c. 街のなかを自由に動き回ることでできる立場
d. 周りの人の手助けをあまり必要としない立場

> 7～8 段落

3. テキストに出てくる子どもたちの意見と合うように{ }の中の適当な言葉を選びなさい。
また、()に適当な言葉を書きなさい。



■ 認知 タ ス ク ■

> 5～6 段落

 論理展開を予測・把握する

 明示的な主張・意図を把握する

1. 下線部③は、どのような意味ですか。適当なものを選びなさい。
- 医療体制が整い、障害を治してもらえるようになる。
どこの しょうがい
 - 人に助けてもらわなくても自由に行動することができるようになる。
 - 障害に対する認識が変わり、社会から守ってもらえるようになる。
 - 皆が助けてくれるようになり、どこにでも自由に行けるようになる。

> 5～6 段落

 論理展開を予測・把握する

 比較・対照する

2. 次の文は、本文中の のどちらに入りますか。()にアカイを書きなさい。
- () 駅にはエレベーターも付いてない。
 - () 駅にはエレベーターも付いている。
 - () ホームと電車の間も隙間や段差がなく、スムーズな乗り入れが可能。
すき ま
 - () バスやタクシーにもリフトが付いていて、車椅子のまま乗り込める。
くるまい す
 - () バスやタクシーも車椅子のままでは利用できない。

> 5～6 段落

 論理展開を予測・把握する3. に入る言葉として、適当なものを選びなさい。

- a. 車椅子の性能
くるまい す
- b. 医療技術の遅れ
- c. 人びとの考え方
- d. 環境の不備
かんきょう

> 7～8 段落

 比較・対照する

4. 筆者と子どもたちとの話では、メガネをかけるのと車椅子に乗るのは、何が同じだと言っていますか。適当なものを選びなさい。

- a. 道具によって身体的な障害をカバーしている点
- b. 道具によって障害による不自由さがなくなる点
しょうがい
- c. 道具を使わなければならないために、かわいそうと思われる点
- d. 道具によって人から助けってもらう必要がなくなる点

> 7～8 段落

 比較・対照する

5. 筆者と子どもたちとの話では、メガネをかけるのと車椅子に乗るのは、何が違うと言っていますか。適当なものを選びなさい。

- a. 身体的な障害を持つ人にとっての道具の必要度
- b. 道具を使うときの操作方法の複雑さ
- c. 道具を使うことで得られる行動の自由度
そうさ
- d. 道具の使用に対する一般の人々の印象

> 9 段落

 論理展開を予測・把握する6. に入る言葉として、適当なものを選びなさい。

- a. 精神的な壁を越えられず、なかなか外に出て行けないためだ
かべ
- b. 子どもたちの考えがまだ幼いためだ
- c. 足が不自由で、車椅子に乗らなければならないためだ
- d. 物理的な壁による「できないこと」が多いためだ

7. 下線部④は、どのような意味ですか。適当なものを選びなさい。

- a. 障害者はなるべく生まれてこないほうがいい。
しょうがいしゃ
- b. 障害者は環境が整うまでは街に出ないほうがいい。
かんきよう ととの まち
- c. 誰もが自由に行動できる環境に整えたほうがいい。
だれ
- d. 環境より障害者に対する見方を変えたほうがいい。

8. 下線部⑤は、何がどのようになることですか。適当なものを選びなさい。

- a. 社会全体が障害者に対して同情心を持ってあたたかく接するようになること
- b. 障害者が障害を気にせず、どんどん積極的に社会に出て行くようになること
- c. 地域や職場などで、障害者を特別視せずに、平等に受け入れるようになること
とくべつ し
- d. 街の環境が整って、様々な障害のある人も自由に行動できるようになること

9. 筆者の論点として適当なものを選びなさい。

- a. 環境が整備されれば、体の不自由な障害者は障害者でなくなる。
- b. 社会は障害者を守るためにもっと努力すべきだ。
- c. 障害者は何でも一人でできるので、援助は最小限にすべきだ。
- d. 環境が変わり、障害者が自由に行動できる世の中になった。
えんじょ

■ 出 典 ■

乙武洋匡(著) 1998「心のバリアフリー ―靴と車椅子」『五体不満足』講談社

香山リカ(著) 2006「30代ビジネスマンの「心の病」を考える」『月刊 Forbes 日本版 11月号』ぎょうせい

北原菜里子(著)、岩波書店編集部(編)「少女マンガ家ぐらし」へ―夢を叶える

村上龍(著)、テレビ東京報道局(編) 2007「PROFILE ―夢を実現させ続ける外食産業の雄」『カンブリア宮殿 村上龍×経済人』日本経済新聞出版社

村上龍(著)、テレビ東京報道局(編) 2007「INTERVIEW―夢に日付を入れれば、今日やるべきことがわかる」『カンブリア宮殿 村上龍×経済人』日本経済新聞出版社

テレビ東京報道局(編) 2007「日野原重明：いつも学びがある。患者からも学ぶ。それを伝える役割がある。」『ガイアの夜明け ―不屈の100人―』日本経済新聞出版社

箱田忠昭(著) 2006「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」『200% フル活用！頭のいい「時間」術』三笠書房<知的生きかた文庫>

西日本新聞(2007年8月10日朝刊)「春秋：緑のカーテン」

産経新聞(2008年1月23日)「環境立国ニッポンの挑戦 ―第1章 水資源(4) 進む廃水浄化 再利用「当たり前」」

東嶋和子(著)、北海道新聞取材班(著) 1996「渡り鳥はなぜ迷わない？」『科学・知ってるつもり 77』講談社

築山節(著) 2005「フリーズする脳 ―思考が止まる、言葉に詰まる」『フリーズする脳―思考が止まる、言葉に詰まる』NHK出版<生活人新書>

■ 監修者・編著者紹介 ■

監修者：コミュニケーション学院院長

奥田純子（おくだ じゅんこ）

編著者：コミュニケーション学院 学習リソース開発チーム

竹田悦子（たけだ えつこ）

久次優子（ひさつぎ ゆうこ）

丸山友子（まるやま ともこ）

八塚祥江（やつづか さちえ）

尾上正紀（おのえ まさのり）

矢田まり子（やだ まりこ）

（コミュニケーション学院ウェブサイト URL: <http://www.communica-institute.org>）

■ 語彙翻訳

中国語：于 維強

韓国語：林 慧暻

英語：David Polen

■ 装丁

折原カズヒロ

■ レイアウト

市川麻里子

読む力 中級

よ ちから ちゅうきゅう

2011年6月8日 第1刷 発行

[監修]

奥田 純子
おくだ じゅんこ

[編著]

竹田悦子・久次優子・丸山友子
たけだ えつこ ひさつぎ ゆうこ まるやま ともこ
八塚祥江・尾上正紀・矢田まり子
やつづか さちえ おのえ まさのり やだ まりこ

[発行]

くろしお出版

〒113-0033 東京都文京区本郷3-21-10
Tel : 03-5684-3389 Fax : 03-5684-4762
URL : <http://www.9640.jp> Mail : kurosio@9640.jp

[印刷]

シナノ書籍印刷

© 2011 Etsuko Takeda, Yuko Hisatsugi, Tomoko Maruyama, Sachie Yatsuzuka, Masanori Onoe, Mariko Yada
Printed in Japan
ISBN 978-4-87424-518-7 C0081

乱丁・落丁はお取り替えいたします。本書の無断転載・複製を禁じます。

著作権保護コンテンツ